安倍晋三内閣による「集団的自衛権行使容認」の閣議決定に抗議します。

２０１４年７月１日、安倍晋三内閣は「集団的自衛権の行使容認」を閣議決定しました。わたしたち日本バプテスト連盟は、この歴史的暴挙とも言える決定に対し強く抗議します。

集団的自衛権の行使容認は、政府のどのような説明をもってしても、その本質は「米国主導の戦争への事実上の参加」以外のなにものでもありません。この決定によって、日本は、たちまちにして予測不能な戦争・紛争の当事者となり、また攻撃目標となってしまいます。この決定は、日本に生きる人々の安全を保障するどころか、日常的な恐怖と悲しみへと人々を突き落とし、際限の無い争いと憎しみの連鎖に組み入れる結果をもたらします。基地の負担によって、今でさえ限界状態に置かれている沖縄の人々は、基地の更なる増強と半永久的な固定化に苦しむばかりか、反撃の標的としての危険性が現実的なものとなります。何一つ、善きものは生まれてきません。

今回の決定は、歴史の反省に立って「戦争の放棄」を世界に公約した日本国憲法第九条を実質的に破棄する行為であり、歴史に対しての裏切り行為、そしてアジア周辺諸国のみならず世界に対する背信行為です。また、閣議決定によって解釈を変更した手法は、立憲主義に対する挑戦であり、国民を愚弄・軽蔑する暴挙です。何一つ、義に適うものはありません。

安倍晋三内閣は、ただちに国民と近隣諸国へ謝罪し、今回の閣議決定を撤回すべきです。

「戦争の放棄」を宣言した日本国憲法の理想は、決して非現実的なものではありません。戦争・紛争の防止にとって最も現実的な道であり、世界に拡げ、世界の人々と共有できる有効な手段です。今こそ、日本国憲法の平和主義を生きるべき時なのであり、また平和憲法の力を生かすべき時代なのです。日本が引き起こした悲劇的な戦争からわずか 70 年にも満たない歴史にあって、日本国民自らが、これを捨て去ることはゆるされません。

私たちは、キリストの平和に立脚します。「暴力、武力によっては平和を生み出すことはできない」という聖書の指針に堅く立ちます。

私たちは、「集団的自衛権の行使」にとどまらず、あらゆる戦争とすべての武力行使に断固反対します。

主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。主はこの地を圧倒される。地の果てまで、戦いを断ち、弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。詩編 46:9-10

２０１４年7月１日

日本バプテスト連盟理事会
理事長　奥村敏夫
常務理事　吉髙　叶